第２回計画書

学生証番号 130036A　氏名 小川紗里奈

１．論文タイトル

予測との向き合い方を考える～自然の明日が見えるか～

２．趣旨

予測は占星術を用いて行われていた時代から多くの科学者たちの関心を集め、今では主に数学モデルによって気象、経済、医療など様々な分野で行われる。人々が生活する上で重要な役割を果たしている予測だが、その仕組みが複雑なものが多いために誰もが実態を把握できているわけではなくなっている。例えば災害のような危機的状況において判断を誤ってしまう、というようなことが起こらないためにも、予測の仕組みや問題点について正しく知っておく必要がある。そこで今回は、倫理的問題などとの関連があまりなく身近で比較的分かりやすいという点を考え、天気・環境・災害といった自然に関する予測を中心にし、予測の歴史、用いられてきた技術、そこに絡む利害も含めて予測の可能性や問題点について論じる。経済や医療との関係(例えば震災による経済への打撃というような)もできれば考えつつ、最終的には私たちが予測にどう向き合えばよいかを自分なりに示したいと思う。

３．原資料

「地球温暖化予測情報第５～７巻」「数値予報モデルの精度」など予測の精度に関する資料

：気象庁(http://www.jma.go.jp)

4．参考文献

成山堂書店『地球温暖化予測の最前線』近藤洋輝(2009)。

東京堂出版「数値予報と現代気象学」新田尚(2009)。

早川書房『明日をどこまで計算できるか？』デイヴィッド・オレル(2010)。

著者名・出版社の順番が逆

訳者が書かれていない

書体かサイズが統一されていない。

書式確認

5．研究計画

行のはじまりをこの位置に合わせる。

6月：プレゼンや草稿などの作業も進めつつ、先行研究とも言える「の」「明日をどこまで計算できるか？」を中心に参考文献を中旬までに読み込み、知識を蓄える。参考文献だけでも予測の歴史や技術については多く論じられるが、気象庁のホームページなどから最新の技術の情報も取り入れる。下旬には予測の精度についての原資料から考察していく作業を本格的に進めたいと思う「る」。最終発表の準備もする。

7月：原資料からの考察を続け、できればインタビューもしたい。執筆の準備。

8月：執筆。

日本語で書かれた本：
著者名『書名』、出版社、発行年。
例）　田中純『イメージの自然史―天使から貝殻まで』、羽鳥書店、2010。

外国語で書かれた本の邦訳本：
著者名『書名』、訳者名、出版社、発行年。
例）　スーザン・ソンタグ『良心の領界』、木幡和枝訳、NTT 出版、2004。

第２回計画書

130037D　小川　悠輔

論文テーマ：コントの可能性を探る―ラーメンズのコントを通じて―

趣旨：コントは大衆文化や娯楽の一つであり、若者を中心として多くの人の目を引き付けるものであり、それゆえに大衆への影響力の強いメディアであるテレビや DVD などとも結びつきやすい存在である。一見ただの滑稽な劇と思われがちなコントであるが、このコントを一つの表現手段としている芸人に、ラーメンズがいる。彼らのコントはしばしば「芸術的」と評され、演劇界や学者から特に多くの支持を集めている。この論文では他の芸人との比較や台詞の吟味などを通してラーメンズのコントの面白さの本質を研究し、それをつうじて芸術分野の一つとしてのコントや、メッセージやアイディアを伝える媒介としてのコントなどのコントの可能性を探っていく。

やや カジュアル。例えば
「本論文では一見単なる滑稽な劇と思われがちなコントを一つの表現手段としているラーメンズという芸人を対象として扱う。」
などと言いかえる。

通

原資料：小林賢太郎『小林賢太郎戯曲集　CHERRY　BLOSSOM　FRONT　345　ATOM　CLASSIC』幻冬舎文庫、2007 年。

映像資料

ラーメンズ第 11 回公演『CHERRY BLOSSOM FRONT 345』販売元：ポニーキャニオン、2009 年。(DVD)

ラーメンズ第 12 回公演『ATOM』販売元：ポニーキャニオン、2009 年。(DVD)

トル　トル　トル　トル

参考文献：

上山　輝，山田　奈都美『コントと笑いの関係についての考察：ラーメンズのコントを題材として』富山大学人間発達科学部　、2009 年。

茂木健一郎、ラーメンズ『脳科学流ラーメンズ進化論』、マドラ出版、2007 年。

川田千裕『学生レポート　ラーメンズ・小林賢太郎の「コント」について―ラーメンズとその他のお笑い芸人の「コント」における台詞の比較』、日本大学国文学会、2006 年。

小林賢太郎『小林賢太郎戯曲集　home　FLAT　news』幻冬舎文庫、2002 年。

小林賢太郎『小林賢太郎戯曲集　STUDY　ALICE　TEXT』幻冬舎文庫、2009 年。

＊著者名五十音順に並べかえること。

なぜこの2つは原資料でない？

研究計画：

この位置まで行全体を下げる

6 月　資料の参照とラーメンズのコント DVD の鑑賞と戯曲集の読み込みを通して、資料を自分なりに消化する。

具体的に、どのように？どのような着眼点から？

7 月　他の芸人（ラーメンズと近い芸人、遠い芸人の両方）のコントも鑑賞。ラーメンズとの比較作業を行う。月の後半からは論文の執筆作業開始。

8 月　論文草稿完成。修正や加筆を施したのち提出。

参考

日本語で書かれた本：

著者名『書名』、出版社、発行年。

例）　田中純『イメージの自然史―天使から貝殻まで』、羽鳥書店、2010。

外国語で書かれた本の邦訳本：

著者名『書名』、訳者名、出版社、発行年。

例）　スーザン・ソンタグ『良心の領界』、木幡和枝訳、NTT 出版、2004。

＊行間をつめて一枚にまとめた方がよい。

＊書体は明朝体が普通

第２回計画書

学生証番号　130038G　　氏名　河原崎俊介

論文のタイトル：義務教育期における漢字指導―内容・方法の改善点を考える

趣旨：平成 20 年に「生きる力」の育成を掲げ告示された新学習指導要領は、今年小学校において全面実施された。中学・高校においても１～２年後の全面実施に向け準備が進められている。この改訂は、時代の風潮に応じた教育ニーズの変化や、旧来の教育方針で浮き彫りになった種々の問題点の解決に対応するものである。しかしながらこの指導要領に対しても批判の声は少なからずあり、教育のカリキュラムや教育現場での指導方法の改善というものが常に議論される課題であることがうかがえる。

今回は特定の一分野に限ってこの問題を考察しようと考えた。そこで注目したのが「漢字」という、パソコンの使用普及を背景に近年常用漢字表が改訂されるなど最近何かと話題になっている対象である。そこでまずは義務教育期における漢字の教育法について改善案を考えだすと共に、今後この作業が国語の他の分野の教育法や他の教科の教育法の考察においても役に立つことを期待している。

本論文では　して注目を集めている「漢字」の分野に考察対象を限定する。　考察し、　の　も応用していくことを考える。

もう少し簡潔に。例えばこのように

この部分文字色を黒に統一。

まずは、原資料である学習指導要領をもとに、日本政府の方針としての漢字教育の意図と内容を明らかにする。この意図とは、一言で言うと「生きる（ために漢字を日常生活で適切に使う）力」といえよう。この妥当性について、今回の論文では検討の対象としない。その意図を実現できるか、という点から内容を検証し、現状での問題点を明らかにする。その上で、その問題点を解決できるような、生徒に与えられるべきよりよい漢字教育の内容と方法を提唱したいと考えている。より細かい内容としては、

原資料とし、

ここもやや冗長

例えば、ここを、「現在の漢字教育は、「生きる（…）力」を育てるという学習指導要領の意図を実現できるものか、という点から…」など

① 小学校ではひたすら漢字ドリルを使って字を書く練習をしたが、生徒の関心や興味をもっと引き立てるような漢字の指導方法はないのか？

② 「読み」より「書き」の学習目標が一歩遅れているのは妥当なのか？

③ 中学校では、常用漢字の読み・書きをどこまで教えるべきなのか？

といった問いに答えられるようにしたいと考えている。

言いかえ例：「なることを目指す。」

原資料：小学校学習指導要領・中学校学習指導要領の本文および解説（平成２０年告示）

※ 出典：文部科学省サイト内ホームページ“新学習指導要領・生きる力：文部科学省”

＜http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm＞

論文：
執筆者名「記事タイトル」、『雑誌名』巻号、出版社、発行年、頁数。
例） 松浦寿輝「明治の表象空間（1）」、『新潮』第 103 巻 1 号、新潮社、2006 所収、320-327。

参考文献・論文：

書式確認

・ 内田伸子 2010 「漢字は概念を運ぶ手段」『日本語学』29(8) ,32-43

・ 倉澤栄吉ほか『国語教育入門』（朝倉国語教育講座 1）朝倉書店 2005

・ 棚橋尚子 1998 「小学校における漢字教育の現状と問題点」『日本語学』17(5) ,17-25

・ 福沢周亮『改訂版 言葉と教育』放送大学教育振興会 1995

・ 福沢周亮『漢字の読字教育—その教育心理学的研究』学燈社 1976

・ 松村由紀子 2010「改訂常用漢字表と学校教育における漢字指導」『日本語学』29(10) ,82-89

・ 三浦修一 2002 「学ぶ生徒のための国語科カリキュラム」『日本語学』21(4) ,36-43

研究計画：学習指導要領からの「意図・内容の把握」はほぼ完了したので、６月前半で『日本語学』に掲載された論文の筆者の意見を整理し、６月後半でその妥当性の裏付けを行うために、教育心理学的アプローチを行った本の読解や現場教員へのインタビューないしアンケートを実施してみたいと考えている。比較的データが集まっている②③は７月の最終発表までに考察を終えたいが、①は７月末まで調査がずれ込む可能性が高いとみられる。

日本語で書かれた本：
著者名『書名』、出版社、発行年。
例） 田中純『イメージの自然史—天使から貝殻まで』、羽鳥書店、2010。

第２回計画書

氏名：窪西駿介　学籍番号：130040D

1.論文のタイトル：学問性と意義から見る臨床心理学のあり方

2.趣旨：

まず臨床心理学の定義について既存の概念から確認する。特に学問全体や心理学内での位置づけと、精神医学との比較の 2 点を中心とする。次に様々な潮流を分類して説明する。その中で特に認知療法派の立場から学問性（＝自然科学的な方法論との関わり）について考察しつつ、ロジャーズ派の立場から学問にとらわれない意義について考える。最後に結論として、臨床心理学のあり方を独自の知見から提起する。

3.原資料：

下山晴彦『臨床心理学の新しいかたち』誠信書房、2004 年

4.参考資料：

河合隼雄『心理療法入門』岩波現代文庫、2010 年

北村英哉『なぜ心理学をするのか―心理学への案内』北大路書房、2006 年

下山晴彦『これからの臨床心理学』東京大学出版会、2010 年

下山晴彦、丹野義彦編『臨床心理学研究』東京大学出版会、2001 年

津川律子『精神科臨床における心理アセスメント入門』金剛出版、2009 年

鑪幹八郎、川畑直人『臨床心理学―心の専門家の教育と心の支援』培風館、2009 年

また、石垣教授と学生相談室の臨床心理士の方からこの議題に関して話を伺い、意見を頂いた。これを踏まえて、論文の方向性を決定した。

5.研究計画：

6 月前半　全体の大まかな構成を決める。また、参考資料(特に『これからの臨床心理学』と『臨床心理学研究』)を精読して、具体的に引用する若しくは参考にする部分をピックアップする。加えて論理的に弱い部分を補強するための資料を探す。

6 月後半　細かい章立てを決めて、全体の布置を確認しながら第一章を執筆する。並行して最終発表に向けての準備を行う。

7 月　執筆を続ける。

8 月　草稿完成。可能であれば第三者のチェックを受けて、仕上げを行う。

第２回計画書

130039Ｊ　教欒木慶子

論文のタイトル：アナウンサーはどんな役割を担うべきか

趣旨：今、テレビで目にするアナウンサーは、きれいな人・かっこいい人、そして、特に女性においては若い人が多い。また、タレントとほとんど同じような仕事もしている場面もたびたび見受けられる。それに対して、いわゆるアナウンサーに対するタレント化批判もあるが、そのタレント化は、果たしていけないことなのか。求められているがゆえにそうなっているのではないか。

そんな今、アナウンサーという職業の役割を明確に定義するのは難しい。そこで、アナウンサーという職業が生まれた時から今に至るまでのアナウンサーの役割の変遷、また、名アナウンサーと呼ばれた人たちが担ってきた役割を調べ、今、そしてこれからのアナウンサーに求められている役割を考察したい。

原資料：ＮＨＫアナウンサー史編集委員会編『アナウンサーたちの７０年』講談社 1992

参考文献：秋山士郎『ことばの散歩道』大和山出版社 1984

中川勇樹『テレビ局の裏側』新潮新書 2009

ＮＨＫ総合放送文化研究所編『テレビで働く人間集団』日本放送出版協会 1983

日本放送協会編『新版ＮＨＫアナウンス・セミナー』日本放送出版協会 2005

山川静夫『そうそうそうなんだよ　アナウンサー和田信賢伝』岩波現代文庫 2003

研究計画：６月中には原資料をもとに、アナウンサーの歴史の部分の調査をある程度終わらせる。

６月末～７月中旬にかけて、過去に名アナウンサーと呼ばれた人、また現在のアナウンサーが担っている役割について調査し、今後のアナウンサーに求められている役割を考察する。

７月中旬～８月にかけて、草稿を書き、その後、８月中にその編集、肉付けを行い、清書し、完成としたい。

５月～６月上旬

資料を探して読みつつ、アウトラインを考え、利用する資料をある程度固める。第２回計画書の準備。

日本語で書かれた本：

著者名『書名』、出版社、発行年。

例）　田中純『イメージの自然史―天使から貝殻まで』、羽鳥書店、2010。

外国語で書かれた本の邦訳本：

著者名『書名』、訳者名、出版社、発行年。

例）　スーザン・ソンタグ『良心の領界』、木幡和枝訳、NTT 出版、2004。

６月下旬～７月上旬

簡単な下書きの作成。

最終発表の準備。

７月下旬～８月

簡単にした下書きの肉付け、その編集。

清書、論文の完成。

第２回計画書　　　　　　　　　　　　　　　　　　　130041G小西由華

論文テーマ：中二病～流行語の社会的背景とその影響～

問題意識：「中二病」この言葉が広まったのはここ数年のことである。中二病という言葉は伊集院光のラジオから始まったとされるが、流行するにつれてその定義は拡大し、「高二病」などの新語まで登場した。流行語の多くは広まってすぐ消えていくものだが、なぜ中二病はここまで広まったのか。名前はなかったものの現象としては昔からあったのではないだろうか。また、名前がついたことによって、社会、特に若者の間で何か影響はなかったのか。これらのことを調べることを通して、中二病という現象について考えたい。

原資料：塞神雹夜「中二病取扱説明書」２００８年　新紀元社

参考文献：・金田一「乙」彦「オタク語辞典」２００９年　美術出版社
・滝本竜彦「中二病でGO!」２００９年　GN
・ほか若者の行動心理に関する本など

参考資料：・２ちゃんねるなどのインターネット掲示板
・アンケート

研究計画：６月・・文献を読む。情報を集める。アンケート。
７月・・データの整理。論文の下書き。
８月・・論文の清書。

日本語で書かれた本：
著者名『書名』、出版社、発行年。
例）　田中純『イメージの自然史―天使から貝殻まで』、羽鳥書店、2010。

外国語で書かれた本の邦訳本：
著者名『書名』、訳者名、出版社、発行年。
例）　スーザン・ソンタグ『良心の領界』、木幡和枝訳、NTT 出版、2004。

第二回計画書

130042J　後藤美波

論文テーマ：マクドナルドはどのようにして世界を飲み込んでいったか

問題意識：わたしは、わたしたちが今接している大衆文化について調べようと考えました。しかし「大衆文化」だけでは論じるには漠然としすぎているために、大衆文化の精神を体している（と考えられる）ものについて論じようと思いました。そこで考えたのがマクドナルドです。なぜマクドナルドかというと、安い、うまい、早い、身近、大量生産・大量消費、世界中どこにでも手に入る、そして若者がターゲット、と、大衆文化の特徴に見事合致しているからです。マクドナルドについて考えることで、大衆文化についてもよりよく知ることができると思っています。

導き出したい結論：ただマクドナルドの誕生や変遷、経営戦略について述べるだけではなく、大衆社会のもつ弊害などにも触れていきたいと思います。

原資料：McDONALD's 極秘施設への潜入でわかった「だからマクドナルドは愛される」（世界で売れる「ヒットの法則」）/ Paynter Ben

参考文献：

マクドナルド市場独占戦略 / 中山新一郎著

マクドナルド化の世界：そのテーマは何か? / ジョージ・リッツア著；正岡寛司監訳

研究計画：

5～6月　ひたすら文献を読む。

7月　論文の下書きをはじめる。

8月　論文の完成に向けて頑張る。

日本語で書かれた本：

著者名『書名』、出版社、発行年。

例）　田中純『イメージの自然史―天使から貝殻まで』、羽鳥書店、2010。

外国語で書かれた本の邦訳本：

著者名『書名』、訳者名、出版社、発行年。

例）　スーザン・ソンタグ『良心の領界』、木幡和枝訳、NTT 出版、2004。

論文：
執筆者名「記事タイトル」、『雑誌名』巻号、出版社、発行年、頁数。
例）　松浦寿輝「明治の表象空間（１）」、『新潮』第 103 巻 1 号、新潮社、2006 所収、320-327。

左はじを合わせる

第２回計画書

130043C 齋藤礼文

論文のタイトル：海外推理小説の翻訳の歴史と今後の展望　～我々は何を読め、何を読めないのか～

趣旨：

海外の小説は、翻訳という作業を経て日本に紹介される。だがその翻訳という作業の前に、どの本を国内に紹介するべきかという原書の選択が、評論家・出版社による判断や、読者の要望をもとに行われている。さらに我々の読む訳文には、訳語の選択という作業を通じた、翻訳者や編集者による意向が多分に含まれている。こうしたことは普段なかなか意識されないが、読者の読書体験を大きく変えうるものであり、我々はそのことを十分に認識しなければいけない。我々は翻訳物を、極めて受動的にしか読めないでいるのである。

以上の問題点を、「推理小説」という一ジャンルに限定して研究する。この選択は、「推理小説」が娯楽小説として大衆向けに訳されてきたこと、および筆者個人の読書経験を考慮したものである。最終的には、今後我々は翻訳された推理小説を読むにあたって何を考えねばならないのかを考察する。

本論文の論点は大きく２つに絞られる。第一の論点は、海外推理小説の翻訳は、国内のどのような状況をふまえ、いかなる歴史をたどってきたのか、ということである。このことについては、さらに「原書の選択の歴史」と「訳語の選択の歴史」という２点に分類し、およそ以下の章分けを念頭に置く。

・原書の選択の歴史
　明治～大正時代
　昭和時代と江戸川乱歩の影響
　平成時代
・訳語の選択の歴史

第二の論点は、今後の海外推理小説の翻訳は、どのように展開されると予想できるか、ということである。この論点が本論文における最大論点である。第一の論点はあくまで第二の論点を導くためのものにすぎないが、第二の論点の考察上必要なものであると考えられる。

研究方法としては、第一の論点のうち「原書の選択の歴史」については先行研究の文献読解を、「訳語の選択の歴史」については、文献資料が少ないため、筆者自身による読み比べを主とする。第二の論点ではインタビューを取り入れ、第一の論点の研究結果を手がかりに予想を打ち立てる。

原資料：長谷部史親（1992）『欧米推理小説翻訳史』本の雑誌社

参考文献・論文：

大屋幸世（2008）『日本近代文学小資料(20) 東京創元社の翻訳ミステリーと昭和の文学たちなど　若い戦後文学研究者のために』日本古書通信本古書通信 73(2)，28-29
川戸道昭、榊原貴教（2001）『復刻版 明治の翻訳ミステリー 翻訳編(明治文学復刻叢書)』五月書房
新保博久、山前譲（1995）『クリスティに脱帽』河出書房新社
横井司（2011）『海外ミステリの翻訳状況と現代ミステリの抱える問題点（特集 エンターテインメント最前線）』大衆文学研究 2011(1)，11-15

書式、参考

論文資料の書き方。

研究計画：原書の選択の歴史については、明治～大正時代の研究は５月中に完了したため、６月に昭和～平成時代を研究し、対応する文献を用いる。訳語の選択の歴史については、論文の執筆開始まで筆者自身による読み比べを続けるという計画であるため、詳細は未定である。第二の論点については、６月 18 日に現代の書評家の方々にインタビューを行い、それを参考に６月中に予想を立てる。論文の目次・アウトラインの完成、および論文の執筆開始は、７月上旬を予定している。

日本語で書かれた本：
著者名『書名』、出版社、発行年。
例）　田中純『イメージの自然史―天使から貝殻まで』、羽鳥書店、2010。